

## 第1回北海道ロボット農作業機等実用化普及推進協議会議事概要

平成26年5月21日（水）10時～  
かでの2・7 1040会議室

### ○あいさつ

技術普及課長

- ・ 道では、平成23年度から「次世代農業確立普及推進事業」を実施し、関係機関の構成員による「北海道次世代農業推進協議会」を設置し活動してきた。
- ・ 現在、ロボット農作業機などの研究開発・実証研究が進められており、先端技術の導入意欲が高まっている。
- ・ 先端的な農業機械を最大限効果的に活用するには、導入事例をもとに機器の性能、経営への効果、活用法等を整理し、普及指導のための情報の充実と、利用者や農業者のニーズを把握し研究開発などに伝えていくことが必要。
- ・ 今後一層、農業生産の効率化を進めるため「ロボット農作業機等実用化普及推進事業」を本年度から4年間実施することとした。
- ・ 引き続き、この協議会を通じ情報の共有を図るとともに、農業者等へ情報提供を行い、革新するロボット農作業機等の実用化・普及に取り組んでまいりたい。

### ○議題1 北海道ロボット農作業機等実用化普及推進協議会の設置について 事務局から説明（資料1）

- ・ 協議会の設置及び会長、副会長を報告。
- ・ 構成員に総務省北海道総合通信局、農林水産省北海道農政事務所、経済産業省北海道経済産業局及びホクレン農業協同組合連合会が新たに加わった。

### ○会長 あいさつ

- ・ 前事業の協議会においても、大変大きな役割を果たした。例えば、一般の農家の方々に新しいICT、ロボット技術というものを知ってもらい、啓発、普及を推進するという大きな役割を果たした。
- ・ このロボット農作業機等実用化普及推進協議会、もっと大きい役割を果たすものと期待。
- ・ 農家のニーズに合った技術がどんどん生まれて、この協議会を通して普及していくことを大きく期待。

### ○議題2 本年度の道の取組について （資料2、3）

- ・ 前事業の経過や現在の国の動向、近い将来の情勢、新規事業の主な内容を説明

#### ①先端技術研究調査

全国段階の先端技術情報を積極的に収集・提供

#### ②先端技術活用調査について

GPSガイダンスシステム等導入農家の協力の下、活用状況、導入効果、経営の影響について、具体的な計測値をできるだけ活用し取りまとめ提供し、導入下限面積等も示していきたい。

#### （資料4）

- ・ 26年度の取組予定の説明

### ○議題3 関係機関からの情報提供

#### ◇北大

- ・ 過去5年間、農水省の委託プロジェクトを実施。今年度は最終年、ロボットトラクタの現地実証試験を実施。
  - ①士別市大区画水田（6.8ha）で、5/16～17にロボットトラクタ（83馬力）による耕起、5/21～22にロボットトラクタ2台（83・100馬力）で協調作業による代かき実証。
  - ②5/17～18に音更町で大豆の耕起、播種の畑作実証。
- ・ 国の委託プロジェクト最終年であるため、東京や札幌でシンポジウムを開催し、その成果及び課題を総括する。

#### ◇道総研工業試験場

- ・ 今年の継続する研究開発は、農業研究本部が中心となっている次世代型のポテトプランターの開発。今年度が最後で、試作機を秋までに2度ほど実験予定。
- ・ 3月に終了した課題では、果樹園向けの除草ロボットの見通しを立てた。今後の実用化に向けた課題への対応が必要。

#### ◇農林水産省北海道農政事務所

- ・ 「スマート農業の実現に向けた研究会」の取組と平成26年度予算の概要について、情報提供。

#### ◇総務省北海道総合通信局

- ・ 「ICTを活用した農業の高度化等推進に関する勉強会」を今年度も引き続き進める予定。

#### ◇経済産業省北海道経済産業局

- ・ 昨年度、農業者に対するITを活用した取組やアンケート活動を紹介。

#### ◇ホクレン

- ・ JAでのGPSガイダンスの展示と試乗や農協の担当者に向けて知識を伝える活動を予定。

#### ◇事務局

- ・ 国の委託プロジェクト「攻めの農林水産業の実現に向けた「革新的技術緊急展開事業」」において、H26～27年度の2年間、道内で農業のICT化に関わる課題として、水稻1、畑作3課題がある旨説明。
- ・ 岩見沢市における最先端農業の取組、北海道立農業大学校の研修について、紹介。

### ○閉会

#### 事務局